

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

漱石文庫の整理にたずさわって（3）

自筆資料に見られる用紙と未翻刻断片について

情報サービス課 閲覧第二掛長 湯 本 智 子

漱石が英国留学中に書きためたノート、メモ類は自らが「文学論」（大倉書店、明治40年）序で「留学中に余が蒐めたるノートは蠅頭の細字にて五六寸の高さに達したり。余は此のノートを唯一の財産として帰朝したり」といっているように、帰朝後に書かれたノートを合わせて約1000枚にも及ぶ。これらの自筆の資料を本学では、「ノート断片」とタイトルを付して保管整理しているが、「断片」という言葉の命名について小宮豊隆は「漱石全集・日記及断片」の巻末で次のように解説している。「・・・これは漱石のノートといふ意味、漱石が自分で視たこと、人から聴いたこと、読んだこと、考えたこと、感じたこと、空想したことを、後日の為に手帳もしくは半べらの洋紙に書きとめた謂ひである。」

本号では、漱石の自筆資料に見られるさまざまな「半べらの洋紙」について紹介したい。

ノート断片が書かれた用紙について

1. PARKINS & GOTTO'S IVORY LAID というすかし文字がある紙

縦22.8×横17.7cmのサイズで23本の罫線がある用紙であるが、会社名の配置から見て縦35.4×横22.8cmの用紙を半分に切って使用したと思われる。1901年1月より書かれた滞英時代の日記として「1901 Parkin's & Gotto's」と表紙に印刷されたダイアリーを使っている。このダイアリーの末尾には、このParkins社製の用紙類のカタログが詳細に印刷されている。スタウト、キッド、ボゲンケート、ギディングス読書ノートはこの用紙につづられている。

2. THE NEW NORTH MILL SUPERFINE というすかし文字と女性のすかし模様がある紙

硬質の紙で、王冠状の飾りのついた鏡のような楕円形の中に、楯と槍と葉のついた小枝を持っている女性と、2.6cm間隔の罫線がすかしで入っている。サイズは、英国留学時代の資料の代表的なサイズである縦20.4cm×横16.3cmの大きさがもっとも多い。2辺がギザギザのカットであることから想像すると、定規のようなものをあてて用紙をカットしたように思われる。

この用紙は他に、4辺がきちんと裁断された縦22.8cm×横17.8cmのサイズがあり一定していない。英国留学時代のノートとして分類されている一枚物資料の大部分が、この紙に書かれている。五六寸（約15cm）の高さに達する程になったノートの用紙とは、ロンドンで買い求めた上記1とこの紙という事になる。しかし、英国留学後の1903年11月より1904年4月に書かれた英詩7点も、このNew North Mill社製が使われている。

3. 会社のマークがなく罫線がすかしで入っている紙

3.5cm間隔と2.6cm間隔のすかし罫線の2種類があり、16.3×21.3cm、17×21.3cm等多様なサイズがあり一定していない。2.6cmすかし罫線の紙は、上記2の紙を裁断したものかと思われるが、すかし文字とすかし模様が全く入らない裁断は不可能のように思えるので、同一の用紙か否か不明である。「Nature」「経済の法則」「模倣論」「婦人の地位」等の代表的な英国留学中に書かれた断片はこの用紙が使われている。こ

の紙は、損耗度が非常に激しく茶色に変色していることから、酸性紙の見本のようなものである。中でも最も破損しているのは「Imitation, Suggestion」(模倣論)という資料である。この資料の用紙欠落部分に書かれていた内容は、東大附属図書館に保存されていた漱石の当時の図書閲覧票をもとに岡三郎先生により解説がなされている。(岡三郎著 夏目漱石研究 国文社 1981)

4. BRITISH EMPIRE NOTE というすかし文字のある紙

5. 葉紙のような薄い紙

薄色の罫線があり13.5×21.5cmのサイズの水分を吸収しないような紙質で、セピア色である。この用紙を細く裁断した約220枚の紙片にびっしりと記入された英字断片がある。これらの紙片は、「Contrast」「人ヲ物デ説明スル例」「解スベカラザル物、feelingノ調和ある物」「Concreteニスル(物デ物ヲ説明スル)」と書かれた4枚の封筒に分類されて入っていたと推定される。しかし、現在は封筒よりその紙片類が取り出されているので、元に戻すことは、非常に困難である。今後の研究課題といえるのではないだろうか。

6. F.R Co. 1903というすかし文字がある紙

漱石は、1903年1月には英国留学を終えて日本に帰っているのですが、下記7と共に日本で購入したように思われる。

7. K.B. 1904というすかし文字がある紙

6と7は明治37年から40年頃に書かれた断片に多く見られ、「吾輩は猫である」等に引用されている断片に使われている。

8. Royal Vellum と王冠のマークのすかし模様がある紙

18.2×22cmのサイズを中心より半分に折ってある、厚手の紙でグリーティングカードのような紙

9. RIVERDALE 139 SUPERFINE というすかし文字のある紙

0.8cm間隔の罫線があるノート状の用紙で、明治34年の滞英時代の断片中「普通ノ人間ノフワフワナル事 Dichotomy……」というノートがとられている。

10. 冊子体のノートを切った紙

青い罫線のノートと上に1本赤い罫線がある小型のノートが多く見られる。変則的なものとして罫紙の両サイドに朱色の棒線のある用紙や20.5×33cmのサイズで熊本第五高等学校の印が押印されている用紙がある。現代のA4版は21×29.5cmであるが、明治時代のノートはそれよりも細く長いサイズがあり、当時の大学生は1頁を埋めるのは大変であったろう。又、このサイズの用紙は保管する立場からいうと、大変扱いにくい。

11. 西洋紙

いわゆる、今日のザラ紙である。

12. カード形態の紙

一見コースターのような8.6×11cmの角が丸くなっている厚手の紙。

13. 灰色の紙

大学ノートの表紙のような灰色の厚紙で、22.4×17.5cmサイズを半分に切って使用。

14. 印刷物の裏

漱石が東大英文科講師をしていた時期のもので、種々の印刷物の裏に断片が記されている。

- ・「内田周平」の名刺の裏に「高等学校支那人事件」その他のメモがあるが、当時の名刺は8.5×4.5cmと小型であったが、その裏面も利用されている。
- ・東京大学時間割表の裏にメモ断片がある。時間割には、鉛筆書きで「夏目講師 シェークスピア講義 (King Lear), 文学論」の記録がある。
- ・「センチュリー字典」請求書の裏に小説の構成等のメモがある。

この請求書は半分が英語で London, The Time の記述があり、下半分には日本語で「拝

啓 陳ハ御注文ニ依リ御送付申上候「センチュリー」字典 第壹回月賦金五円也・・・御支払期日ハ毎月二十九日ニ有・・・明治三十九年四月二十八日 夏目金之助殿 エイチ・イー・フーバー」と印刷されてある。

・「書学講究會員募集 明治38年1月」及び「書學會曾則」のチラシの裏に「父娘の事を心配す、然し男の一言の爲、又プライドの爲之を口にせず 娘父の事を思ふ 然し零落せるが爲めプライドの爲に父に面会せず」とあるが、出版社のしおりにも「父の意に従はず結婚 娘のプライド 父 娘ヲ心配ス然しプライドアリ面会せず」と同じ内容のメモが書かれてある。

・「東京帝大文書記録図書展案内」のはがきの裏に「帝國ホテル、鏡前直し」等のメモがあるが、このことは「坊ちゃん」に引用されている。このはがきに印刷されてある内容を下記に紹介する。

「本月廿七、廿八、廿九（金、土、日曜）ノ三日間本學構内運動場協會議所ニ於テ 史料編纂掛ニ蒐集セル文書記録図書等ノ第四回展覽會相開キ候間午前九時ヨリ午後三時マデ（金曜日ハ正午ヨリ）ノ間ニ御來觀被下度此段御案内申上候也 明治三十八年十月 夏目金之助殿 東京帝國大学總長理学博士 山川健次郎」

用紙の種類を調べて感じたことは、かつてこれらのノート断片の大部分を翻刻した出版物によると、用紙の異なる断片を同一の分類で編集しているが、必ずしも正しいとは言えないのではないかということである。漱石がよく行う書き終わった紙片を上から糊で貼り足してゆく作業の跡が明らかな資料が、ひとまとめに編集されるのは当然だが種類の異なる紙片で、しかも明らかに購入した時代も異なる用紙に書かれた断片は一枚一枚の間に思考の独立性があるよう

に思われるからである。又、1904というすかしがある用紙に書かれている断片が、明治34年（1901）4月以降に書かれた滞英時代の断片として編集されていることにも、若干の疑問が残る。

次に、これまで述べてきたノート断片の中からまだ翻刻活字化されておらず、しかも筆者が読んで「面白い！」と感じたものを、2点紹介したい。

灰色のカード様の紙に書かれた断片（図1）

（表）

Reasons for not supposing・・・

（1）顔色ハ単ニ肉慾ヲ挑発スルノ爲ニ好悪スベク 作ラレタルニ過ギズ 其証拠ニハ十五六ノ女ガ人ヲ愛スルハ 単ニ顔色ノミニ依頼シテ判断スルコト

（2）「顔ガヨクテモ心ガマヅケレバ ダメ」ト始終口癖ニ云フコト

（3）達磨ノ像ヲ西洋人ニ見セタラ、敬ヲ起スドコロカ下等人種トナスベキコト

（4）故ニ貌ヲ以テ其心ヲ判スルハ 単ニ association 作用ニ過ギザルコト、吾人ガ達磨ノ像ヲ好ムハ達磨ノ顔色ト其崇高ナル内心トヲ associate シタル結果 其一ヲ見テ他ヲ直ニ喚起スルニ過ギザルコト

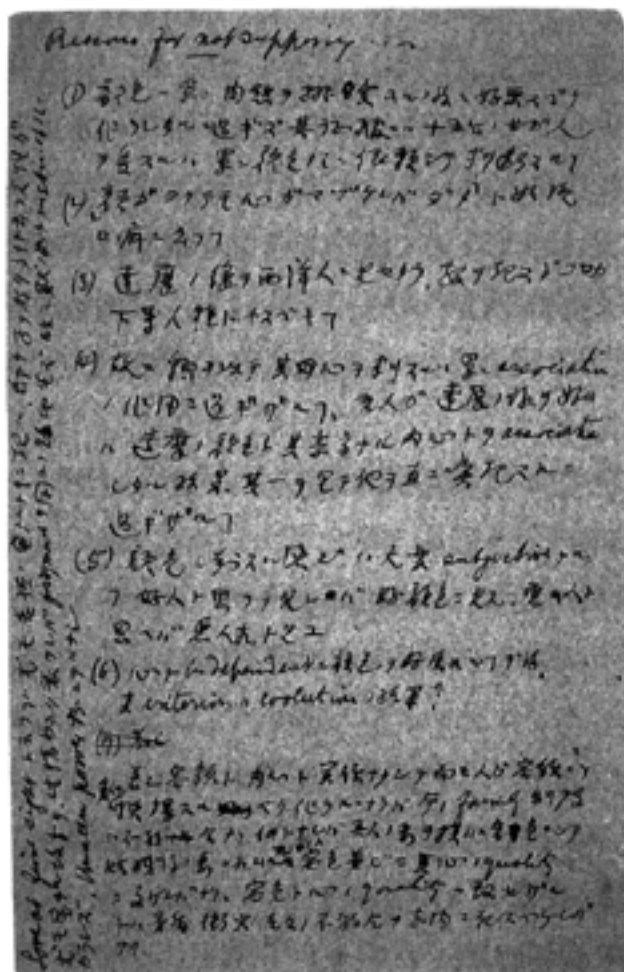
（5）顔色ニ對スル感ジハ 大変 subjective ナルコト 好人ト思フテ見レバ好顔色ニ見エ、悪キ人ト思ヘバ悪人相ト見ユ

（6）心ト independent ニ顔色ヲ好悪スルコトヲ得。

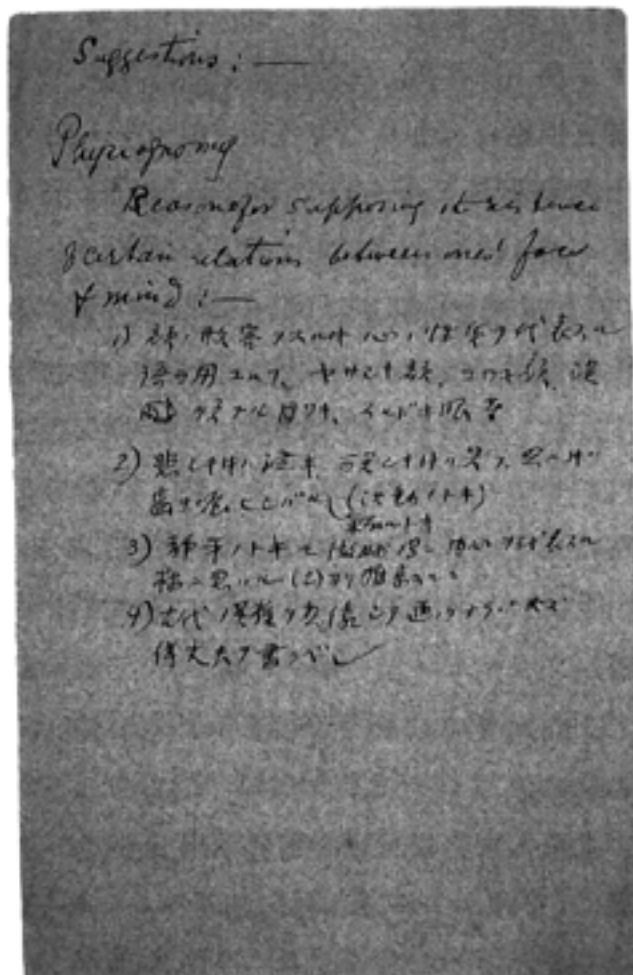
其 criterion ハ evolution ノ結果？

（7）若シ （棒線で抹消されている）

若シ 容貌ト内心ト関係ナクシテ而モ人ガ容貌ニテ愛人ヲ撰擇スルベク作ラルルナラバ今ノ family 制度ハ不都合ナリ 何トナレバ吾人ノ妻ヲ撰ムハ容色ニシテ 結婚後ノ妻ニ求ムル（ ）ノハ容色並ビニ其心ノ quality ニ多ケレバナリ、容色ト心ノ quality 一致セザルトハ矛盾衝突色々ノ不都合ヲ家内ニ起スベ



(表)



(裏)

灰色のカード様の紙に書かれた断片 (図1)

ケレバナリ

(紙の横に) Love of first sight ト云フコト
尤モ愛情ノ盛ナルトキニ起ル、即チ子ヲ持チ
タイト云フ天性ガ尤モ盛ナル故ナリ。此情少シ
ク衰フレバ judgment ヲ用ユノ余地生ズ 故ニ
獸ノ如ク instinct ノミニカラレズ、Unseen
power 杯ニテハナシ

(裏)

Suggestions:-

Physiognomy

Reasons for supposing the existence of certain
relations between ones' face and mind:-

- 1) 顔ノ形容ヲスルトキ 心ノ性質ヲ代表スル
語ヲ用ユルコト、ヤサシキ顔、コワシキ顔、温
順ナル目ツキ、スルドキ眼等
- 2) 悲シキトキハ泣キ、可笑シキトキハ笑フ、
怒ルトキハ歯ヲ喰ヒシバル 気取ルトキ (活
動ノトキ)

- 3) 静平ノトキモ微妙ノ間ニ内心ヲ代表スル様
ニ思ハル (2) ヨリ推察スルニ
- 4) 古代ノ英雄ヲ想像シテ画クナラバ 必ズ偉
丈夫ヲ書クベシ

カード形式の用紙に書かれた断片 (図2)

(表)

Poetical Diction

- (1) 人ノ面ハ皆違フ
- (2) 人ノ conversation ノ manner ハ皆違フ
- (3) 人ノ文章モ違ハネバナラヌ違フカラ
individuality ガアツテ読ム価値ガ出テ来ル

I Conventional ナ人ノ conversation
ハ皆同ジダ

II " 書イタ画ハ皆 "

III " 文 "

特色ガナイカラ コレガナクナッテモ人間ノ
treasure トシテ損害ガナイ。アツテモナクテモ
善イ者ハ無益ノ労力ヲ費ヤシテヤル必用ガナイ

(己ヲ満足スル以外ニ於テ)

(4) 人ノ poems モ皆違ハネバナラス

此故ニ外国ノ Poem ヲ appreciate スルノハムヅカシイ

appreciate スル前ニハ distinguish スル必要ガアル (from each other, from Japanese)

吾々ガ西洋人ノ男振リヲ 評シ得ル前ニハ西洋人ト日本人ノ顔ノ差別ノミナラズ 西洋人ト西洋人ノ顔ノ区別ヲ知ラネバナラス

始メテ西洋人ヲ見ルト ドレモ是レモ同ジ顔デアル 従ツテ此 perception ニ伴フ感シモ同一デアル

全体ヲ好ト感ズルカ 全体ヲ悪ク感ズルカ 全体ニ indifferent デアルカデアル。

(裏)

始メテ西洋人ヲ見レバ目ニツクハ 日本人ト著ルシク異ナツタ点デアル (1) 眼ノ碧キコト

(2) 色ノ白キコト (3) 毛ノ赤キコト (4)

脊ノ高キコト (5) 衣服ノ異ナルコト等

日本人ハ此等 (1) - (5) ニ至ル諸点ニ於テ

日本人 (全体) ト西洋人 (全体) トノ差異ヲ見ル 此時日本人ガ西洋人全体ヲ評スル美学上ノ標準ハ 元来 西洋人ヲ一度モ見タコトナキ時ニ養成サレタル標準ニテ好悪ノ判決ヲナス。

髪赤シ 醜, 眼碧醜, 脊アマリ高シ醜等ナリ 此 醜ト見做ス諸点中ニアル美ヲ発見スベク perception ガナサレテ居ラズ 従テ此 perception ニ伴フ美感ヲ有セズ 従来ノ美感ヲ起シベキ objective categories 中ニ存在セザル者ヲ見テ categories 中ニナキ故醜トシテシマフナリ。

次ニ 西洋人ノ有シリ特色口中ニ就テ 西洋人ヲ each other カラ甄別シ得ル perception 生ズ (多ク西洋ヲ見ル故)。

次ニ此甄別ニ伴フテ起ル美醜ノ感シヲ起ス 吾人ガ西洋ノ poem ヲ appreciate スル迄ニハ此 process ヲ経過セザル可ラズ 美感ヲ起スベキ objection category ノ中ニ珍奇ト云フコトハ存セズ common ナル者ノ selection ナリ 日本人ノ細キ眼 西洋人ノ太キ眼ノ如シ。



(表)



(裏)

カード形式の用紙に書かれた断片 (図2)

natural & artificial selection ヨリ云へバ珍奇ナル者ハ人ノ注目ヲ引クコト多シ危険ナリ modesty ヲ virtue トスルハ是ガ為ナリ 可成人ノ目ニツカス様ニスルハ 安全ナリ (自己ニモ他人ニモ)

カクシテ common ナル者ノ中ニ selection 行ハレ 此 selection ニ従ッテ美感起ル。

以上、漱石の自筆資料に使用された用紙とそこに書かれた内容を翻刻して紹介したが、総ての使用した紙がB5版を越えるものはなく、小さい紙一面に累々と書かれたノート断片や、一行のみ書かれた紙、一枚の紙片の上から小さく切った紙片を貼り足しているもの、紙一面にこ

ぼれたインキの跡、或いは故意にインキを振り落としたような紙片等を見ると、漱石の苦渋の様子が生々しく伝わってくる。そして、漱石は英国留学中は一切の物を切り詰めて、洋書の購入に金をつぎ込んだといわれる。このことを彼は「余は余の有する精力を挙げて、購へる書を片端より読み、読みたる箇所に傍注を施し、必要に逢ふ毎ノートを取れり。」と言っている。

このように、寝食を忘れ爪に火を灯すようにして得た書物から、数年に渡り几帳面にノートを書きつづけた漱石の努力は、前述した「文学論」に結実した。それが、日本の近代文学史上大きな役割を担ったことは、いうまでもない。

(ゆもと・ともこ)

図書館情報処理システム(T-LINES)の更新について

1. 経 過

平成6年6月より館内に「T-LINES次期(第3次)システム館内検討委員会」が設けられ、当館の現状分析、他大学の状況やネットワークの検討が開始された。平成7年5月に「次期システム検討委員会」が発足し、同6月「技術検討小委員会」を設け、次期システムの機能等の検討を行ってきた。

今回の更新は、政府調達による総合評価落札方式(競争入札)で行うことになり、平成8年5月1日入札公告し、同年7月12日の改札の結果、日本電気株式会社に決まった。同年12月24日新システムが稼働する。

2. 新システムの特徴

新システムは業務の電算化をはじめてから3期目となる。今回の更新で大きく変わったのはハードウェアが汎用機からワークステーションになったことである。

(1) ソフトウェア

- ① ワークステーションの特徴を生かし、グラフィカル・ユーザーインターフェースによる操作のしやすさを目的として、各業務を構築した。
- ② 汎用機の端末が業務処理のみにしか対応できなかったものをパーソナルコンピュータを導入し、業務処理のみではなくワープロや電子メールも利用できるようにした。
- ③ 利用者への利用支援の改善については、従来よりサービスを行っている蔵書検索やデータベース検索はもとより、次のサービスを構築した。
 - ・インターネットを活用した、文献複写申込や、校費による図書購入の本館・分館への依頼手続が研究室からできるようになる。インターネットのブラウザ用ソフトが有れば、これらの機能を利用することができる。

- 学生証（学生）カード，身分証明書の磁気カードによる，貸出，返却，本館の自動入館システムが利用できるようになる。

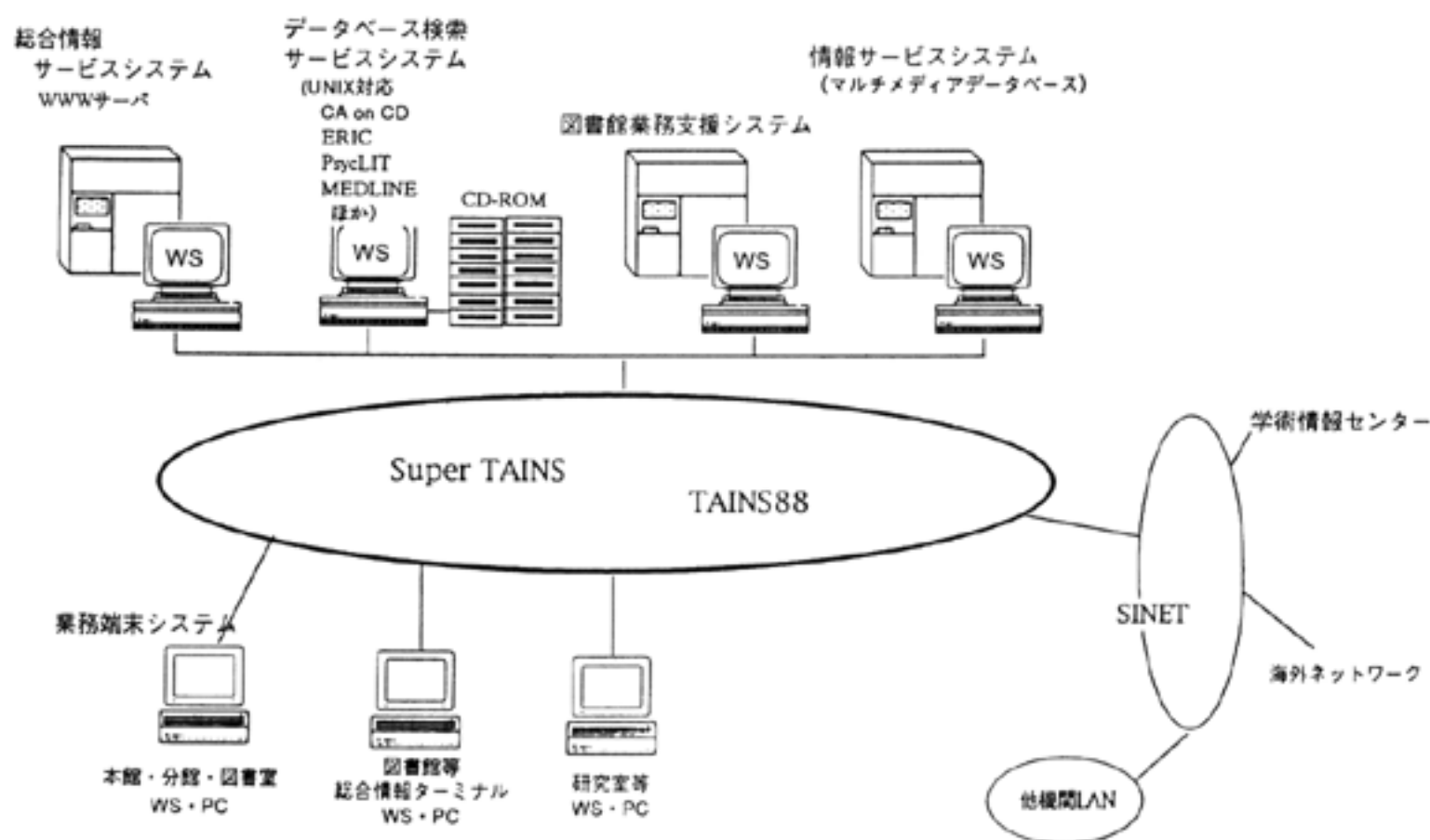
(2) ハードウェア

- ① 業務サーバーと情報サービスサーバをそれぞれ独立させ，処理の分散化を図った。
- ② 業務サーバーには最新鋭CPUを2個搭載したUP4800/760（日本電気株式会社）を導入した。

- ③ 情報サービスサーバーとしてEWS4800/460（日本電気株式会社）を備えた。
- ④ 端末にはPC9821パーソナルコンピュータ（日本電気株式会社）を設置した。
- ⑤ プリンターはレーザープリンタを配備した。
- ⑥ 学内高速バックボーンLANであるSuperTAINS（一部，TAINS88）に接続し，高速化を図った。

（システム管理掛）

「東北大学図書館情報ネットワークサービス概念図」



第51回東北地区大学図書館協議会総会

標記総会は、平成8年9月17日～18日の両日、山形大学附属図書館を当番館として遊学館（山形県生涯学習センター）を会場に加盟館から49館（新規加盟館含む。）96名の参加を得て開催された。

当番館山形大学附属図書館袴田事務部長の司会により開会され、山形大学附属図書館内田館長の開会の挨拶、坪井学長の歓迎の挨拶、常任幹事館東北大学附属図書館小山館長の挨拶があり、議事に入った。

本総会では、永年勤続表彰について、元東北大学附属図書館石田義光氏、同館武田光佳氏及び同館中島 甫氏に対し、永年にわたる図書館活動ならびに本協議会への貢献を賛え、常任幹事館長より所属図書館長を介して退職時に表彰状と記念品の伝達が行われた旨の報告があった。

総会における主な協議事項ならびに各部会での協議事項は以下のとおりである。

（1）新規加盟について

仙台白百合女子大学・短期大学及び秋田桂城

短期大学から新規加盟についての要望が出されたが、満場一致で加盟が承認された。

- （2）東北地区大学図書館協議会国立・公立・私立部会合同の職員研修会のあり方について
- （3）50周年記念事業について

国立部会

- （1）図書資料の購入について
- （2）その他

公立部会

- （1）東北地区大学図書館協議会国立・公立・私立部会合同の職員研究会のあり方について
- （2）その他

私立部会

- （1）東北地区大学図書館協議会国立・公立・私立部会合同の職員研修会のあり方について
- （2）その他

本総会における記念講演は、伊藤健雄山形大学附属博物館長により『山形県の哺乳動物』と題して行われ、参加者一同深い感銘を受けた。

次回総会は、東北工業大学が当番館として開催することとなった。

第37回東北地区医学図書館協議会

標記協議会は、平成8年10月17日（木）～18日（金）の両日、当番館奥羽大学図書館を会場として、加盟館7大学から館長（分館長）及び図書館職員の計14名が参加して開催された。

議事に先立ち潤田館長から挨拶があり、会則に基づき議長に当番館の潤田館長が選出され、出席者の自己紹介の後、議事に入った。報告事項、承合事項及び協議事項等は以下のとおりである。

報告事項：①各館の近況報告、②日本医学図書館協会理事会報告、③日本医学図書館評議会報告、④BLDSC (British Library Document Supply Center) 文献複写利用報告。

承合事項：①時間外（夜間）及び土曜・日曜日の開館現状並びに問題点について、②学生用図書費予算額とその選定方法について、③図書館充実のための寄付金受入の機構について。

協議事項：①平成8年度情報検索担当者会議

について、②第68回日本医学図書館協会総会における東北地区からの提出議題について、③次期当番館について。

特に各館の近況報告では、自動入退館システムとブックディテクションとの接続により、完全無人開館している東北大学の医学分館における国有財産管理上の諸問題点等について活発な意見交換が行われた。

また、情報検索担当者会議として、毎年東北大学で実施していたJICSTのJOIS検索方法等の研修については、利用度が低下してき

ているため、今年度から中止することとし、必要に応じ地区持ち回りによる新しい会議の設置を検討することになった。

なお、東北地区の協会出版編集委員として秋田大学の医学部分館の交代として弘前大学の医学部分館（3年間担当）を担当部局とすることとし、当協議会の次期当番館に同じく弘前大学の医学部分館を決定し、2日間にわたる会議を終了した。

（医学分館）

平成8年度東北大学附属図書館職員総合研修会

職員総合研修会は、慶応義塾大学湘南藤沢メディアセンター事務長小川治之氏と東北福祉大学教授斎藤雅英氏を講師にお迎えして、9月25日（水）午後1時30分より2号館会議室に於いて開催された。

開会宣言、館長挨拶及び講師の紹介の後、「研究教育を支援するための新しい図書館システム」と題する小川氏の講演が行われた。

研究教育のための学術情報支援として、湘南藤沢メディアセンターでは、従来の図書館が行ってきた、図書・雑誌・マイクロ資料などを提供する図書館情報サービスの他に、各種のデータベースやAV資料の作成及び提供と、教材の作成やLL環境の提供などを行う情報メディアサービス。ネットワークシステムの管理・運用を行い、より良い利用環境を整備していくことを使命とする、情報システムサービスが在ることを話された。また、こうしたサービスを充実させるため、専門知識を有する要員を確保してのサポート態勢の整備や、機器の開発などについても取り組んでおられることを話された。

次に、斎藤氏が、「アメリカの図書館事情ーミシガン大学の事例としてー」と題して、アメ

リカの図書館の職員の構成や業務の評価などについて、具体的な例を交えながら実態を話された。職員の構成は、人事や待遇等を扱う部門、秘書的な事務を行う部門、清掃や環境の整備を行う部門、技術・技能的部門、カウンターでの補助的業務を行う部門と、図書館の司書業務を行う部門があり、この部門は、さらに司書補、司書、上級司書、管理職とでも言えるような4つの階級に分かれており、業務の内容と地位・処遇が明確にされている。

また、図書館では、全体としての目標、各部門での目標、各分館・図書館としての目標を設定して明文化し、その目標を達成するための行動計画の作成と達成度の検証や見直しなどが行われている。

個人のレベルにおいても、目標の設定とその達成のための方法を上司と相談し、それを文章化する。これをもとに業務の評価が行われる。昇格（昇給）においては、業務能力だけでなく、図書館全体への貢献度や、研究や出版活動、図書館界での功績などを考慮して行われるということである。

お二人の講演を聞いて感じることは、業務目

標の明確化と組織機構の整備が、いかに重要であるかということであった。

ら多数の参加者を得て盛会であった。

(総合研修委員会)

今回の研修会には、業務多忙の中、学内外か

附 属 図 書 館 の 概 況

この概況は毎年実施される大学図書館実態調査のうち主な項目をとりまとめたものである。表1は平成5年～平成7年度の概況、表2は平成7年度部局別のそれである。

表 1

区 分		平成5年度	平成6年度	平成7年度
蔵 書	和	1,615,139 冊	1,648,977 冊	1,682,385 冊
	洋	1,570,385	1,606,278	1,642,318
	計	3,185,524 冊	3,255,255 冊	3,324,703 冊
所 蔵 雑 誌 数	和	20,771 種	22,153 種	23,524 種
	洋	34,717	35,315	35,780
	計	55,488 種	57,468 種	59,304 種
年 間 受 入 数	和	36,354 冊	33,762 冊	33,466 冊
	洋	32,102	34,920	36,112
	計	68,456 冊	68,682 冊	69,578 冊
年 間 雑 誌 受 入 数	和	10,503 種	11,177 種	11,241 種
	洋	9,355	9,205	9,489
	計	19,858 種	20,382 種	20,730 種
奉仕対象者数	学 生	17,133 人	17,677 人	18,309 人
	教 官	2,487	2,504	2,645
一人当り奉仕対象	蔵 書 数 (冊)	162.4	161.3	158.7
	年間受入冊数(冊)	3.5	3.4	3.3
	図書館資料費(千円)	46.7	35.7	39.2
図 書 館 職 員 数	総 数	138	146	142
	専 任	73	82	76
	臨 時	65	64	66
図書館職員1人当り奉仕対象者数		142.2	138.2	147.6
図 書 館 資 料 費 (千円)		915,528	719,917	820,644
大 学 総 経 費 (千円)		92,561,000	86,423,354	93,735,333

表 2

部 局			職員数() は定員外職員 の内数	蔵 書 (平成8年3月31日現在)						平 成 7 年 度 受 入 冊 数						平 成 7 年 度 経 費					施設(平成8年5月1日現在)				
				図 書 (冊 数)			雑 誌 (種類数)			図 書 (冊 数)			雑 誌 (種類数)			図 書 館 資 料 費				運営費 職員 給与除 (千円)	座席数 (席)	延面積 (㎡)	閲覧室 スペース (㎡)	書 庫 スペース (㎡)	収容可能 冊 数 (冊)
				和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	図 書 (千円)						
本 館	本 館	59 (25)	645,570	334,224	979,794	10,399	9,992	20,391	10,807 (7,855)	4,598 (3,592)	15,405 (11,447)	2,921 (513)	948 (487)	3,869 (1,000)	90,071	36,792	12,906	139,769	225,941	1,144	18,215	4,180	6,847	1,751,328	
	文 学	2 (2)	223,999	127,185	351,184	1,127	886	2,013	6,999 (4,049)	3,092 (2,170)	10,091 (6,217)	679 (352)	618 (607)	1,297 (959)	53,142	9,377	0	62,519	4,787	1	68	2	10	4,972	
	数 育	2 (2)	50,215	34,760	84,975	672	348	1,020	877 (503)	1,079 (419)	1,956 (922)	591 (125)	273 (264)	864 (389)	7,717	6,215	0	13,932	9,594	20	268	89	90	11,950	
	法 学	3 (0)	94,988	123,851	218,839	992	635	1,627	2,596 (1,660)	3,426 (2,163)	6,022 (3,763)	850 (220)	588 (508)	1,438 (728)	32,416	11,684	11,010	55,110	3,701	35	835	65	580	80,778	
	経 済	4 (2)	164,181	158,053	322,234	1,497	1,041	2,538	2,860 (1,740)	2,896 (1,645)	5,756 (3,385)	859 (141)	514 (433)	1,373 (574)	36,128	15,676	0	51,804	7,115	18	286	46	164	27,472	
	遺 生 研	1 (0)	17,776	11,819	29,595	401	290	691	58 (18)	295 (54)	353 (72)	125 (34)	100 (76)	225 (110)	1,064	4,618	0	5,682	911	4	206	18	160	30,444	
	素 材 研	2 (2)	7,994	16,266	24,260	166	352	518	208 (14)	473 (87)	681 (101)	94 (54)	110 (85)	204 (139)	2,345	8,532	0	10,877	4,724	16	246	37	144	25,972	
	科 研	1 (0)	4,375	16,285	20,660	58	245	303	73 (53)	455 (105)	528 (158)	27 (9)	60 (60)	87 (69)	1,959	9,589	0	11,548	2,116	20	574	58	375	36,556	
	流 体 研	2 (2)	12,368	18,345	30,713	67	373	440	80 (61)	197 (103)	277 (164)	41 (28)	100 (94)	141 (122)	1,915	8,339	22	10,276	7,581	7	151	10	106	27,778	
	通 研	2 (0)	7,905	20,894	28,799	230	449	679	246 (64)	860 (109)	1,106 (173)	119 (102)	193 (186)	312 (288)	2,440	15,350	0	17,790	2,495	10	275	20	235	39,667	
	反 応 研	2 (1)	6,658	22,774	29,432	117	421	538	82 (7)	573 (79)	655 (86)	65 (30)	129 (114)	194 (144)	4,827	15,975	0	20,802	4,595	21	382	63	252	39,389	
	マイクロトン	2 (2)	864	3,735	4,599	7	32	39	0 (0)	164 (0)	164 (0)	0 (0)	29 (29)	29 (29)	0	4,870	0	4,870	7,164	4	98	12	35	5,778	
	大 計	1 (1)	2,115	1,953	4,068	47	46	93	12 (0)	39 (8)	51 (8)	49 (49)	36 (35)	85 (84)	94	2,409	40	2,543	4,555	1	91	3	76	6,555	
	計	83 (39)	1,239,008	890,144	2,129,152	15,780	15,110	30,890	24,898 (16,024)	18,147 (10,474)	43,045 (26,498)	6,420 (1,557)	3,698 (2,978)	10,118 (4,635)	234,118	149,426	23,978	407,522	285,279	1,301	21,695	4,603	9,074	2,088,839	
医 学 分 館	20 (11)	150,759	232,262	383,021	2,791	9,086	11,877	2,712 (1,381)	5,945 (558)	8,657 (1,939)	1,289 (506)	2,347 (2,010)	3,636 (2,516)	21,084	93,995	3,899	118,978	61,956	327	4,025	256	2,190	418,222		
北 青 葉 山 分 館	11 (5)	66,449	252,974	319,423	1,399	6,032	7,431	853 (493)	4,394 (752)	5,247 (1,235)	946 (223)	1,442 (790)	2,388 (1,013)	22,011	84,167	294	106,472	40,322	248	3,356	1,140	1,310	296,194		
工 学 分 館	17 (6)	143,119	161,157	304,276	1,595	3,489	5,084	3,648 (1,581)	4,562 (1,451)	8,210 (3,042)	1,307 (457)	1,191 (1,072)	2,498 (1,529)	42,689	80,935	317	123,941	46,751	364	5,335	2,414	605	281,916		
農 学 分 館	6 (2)	65,631	50,554	116,185	1,834	1,434	3,268	1,229 (889)	1,990 (1,086)	3,219 (1,975)	1,112 (138)	665 (311)	1,717 (449)	8,540	24,440	298	33,278	12,266	72	1,279	326	418	98,944		
計	54 (24)	425,958	698,947	1,122,905	7,619	20,041	27,660	8,442 (4,344)	16,891 (3,867)	25,333 (8,211)	4,654 (1,324)	5,585 (4,183)	10,239 (5,507)	94,324	283,537	4,808	382,669	161,295	1,011	14,015	4,136	4,523	1,095,276		
金 研	5 (3)	17,419	55,227	72,646	125	629	754	126 (45)	1,074 (240)	1,200 (285)	167 (136)	206 (167)	373 (303)	5,186	21,876	3,391	30,453	7,830	35	515	169	234	63,333		
総 計	142 (66)	1,682,385	1,642,318	3,324,703	23,524	35,780	59,304	33,466 (20,413)	36,112 (14,581)	69,578 (34,994)	11,241 (3,117)	9,489 (7,328)	20,730 (10,445)	333,628	454,839	32,177	820,644	454,404	2,347	36,225	8,908	13,831	3,247,448		

注)職員数は平成8年5月1日現在

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

第28回 国連寄託図書館会議

情報管理課 逐次刊行物掛 半 沢 智 絵

11月14日（木）から15日（金）の2日間、第28回国連寄託図書館会議が附属図書館2号館大会議室で開催された。

ちょうど最高に冷え込んだ2日間であったので、参加者の方々は（外に出ると）だいぶ寒がっておられた。「仙台は寒いですね。」「そうなんです。」という会話をほとんど全員としたような気がする。

さて、今年は東北大が当番館ということで、逐次刊行物掛の前田掛長の司会で会が進められた。内容は1日目はほとんど前年同様、講演や各館からの報告が行われた。2日目にはおもに研究報告と討議が行われた。

今年も中心となった話題はやはりインターネットであった。そのようにプログラムを組んだせいもあるが、財政の問題もあって国連資料の電子化が一層進んでいること、将来的に印刷資料は減っていく予定であること、国連関係機関のインターネット上のサイトが去年と比べてまた増えていること等、従来の寄託図書館のサービス・広報活動に直接関わる問題になっているので関心は高かった。またこの1年でインターネット接続館も増え、予定も含めると、ほとんどの館がインターネットを導入する事になるということが報告された。

また、電子的資料・情報サービス（CD-ROMも含めて）への対応についても各館から報告してもらったが、まだ電子的情報自体が見通しのつかない課題であるため、試行錯誤中であることがわかった。今後もこの問題については話し合われていくであろう。

1日目の最後に貴重書と国連資料配置書架の見学を行ったが、今年は会議当番館ということで国連資料の整理を行ったので（担当：平井氏）、参加者の方々から「とてもきれいに整理されてますね」という感想をいただくことができた。会議内容についてもよい感想を聞くことができたので、運営した側としてはひじょうに嬉しい思いである。

ただし会議開催までに様々な不手際があり、各方面にはたいへんご迷惑をおかけしてしまった。が、それにも関わらず助けていただいた。また準備にあたっては、たくさんのご支援をいただいた。

今回の会議はその手があったからこそ、なんとか成功に漕ぎ着けたのだと思う。

この場をかりて、お詫びとお礼を申し上げたい。

本当にいろいろご迷惑をおかけしました。そして、ありがとうございました。

（はんざわ・ともえ）

人 事 異 動

平成8年12月31日現在

発令年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
8.10.16		後 藤 浩 子	金属材料研究所図書掛	新規採用

会 議

◎学 内

8.11.18 平成8年度第2回分館長会議

○協議事項

- (1) 平成8年度図書館資料費予算追加配分(案)について
- (2) 施設の将来構想に関する検討委員会(仮称)の設置について
- (3) 商議会(平成8年度第2回)の開催について
- (4) 電子ジャーナルの導入試行について
- (5) その他

○報告事項

- (1) 大型計算機センター長、情報処理教育センター長との懇談会について
- (2) 第51回東北地区大学図書館協議会について
- (3) 国立大学図書館協議会理事会等について
- (4) 国立七大学附属図書館協議会について
- (5) 各分館の状況について
- (6) その他

8.11.18 平成8年度第2回附属図書館商議会

○協議事項

- (1) 施設の将来構想に関する検討委員会(仮称)の設置について
- (2) T-LINES次期システム検討委員会について
- (3) その他

○報告事項

- (1) 各分館からの報告

- (2) 大型計算機センター長、情報処理教育センター長との懇談会について
- (3) 平成8年度図書館資料費について
- (4) 第51回東北地区大学図書館協議会について
- (5) 国立大学図書館協議会理事会等について
- (6) 国立七大学附属図書館協議会について
- (7) その他

◎学 外

8.10.16 国立大学図書館協議会理事会
(於：京大)

10.16 国立大学図書館公開事業実施委員会
(於：京大)

10.16 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会(於：京大)

10.16 国立大学図書館協議会常務理事館懇談会(於：京大)

11. 6 第29回国立七大学附属図書館部課長会議(於：東大)

11. 7 第70次国立七大学附属図書館協議会(於：東大)

11. 8 国立大学図書館協議会と学術情報センターとの業務連絡会(於：東大)

11.14 第28回国連寄託図書館会議
(於：東北大)

12.11~12 第9回国立大学図書館協議会シンポジウム(於：千葉大)

編 集 後 記

現在図書館界は、いわゆる電子図書館化を目指して、日々努力されています。当図書館も汎用計算機からワークステーション型にリブレースされ、12月24日(火)から新しい電算機が稼動し、これまで以上に利用者が使い易くまた便利になったことと思っています。

館長初め館員(分館員等を含む。)の方々には大変ご苦勞様でした。

今回のリブレースのためのワーキング・グループは、若い人達を中心となって進めてきたの

で、ご苦勞も多かったのではと推察いたします。そういう訳で、新しい電算機についても執筆をお願いしたため、発行が遅れてしまいましたが、悪しからずご了承ください。

なお、年末で特にお忙しいところ、本号のためにご寄稿いただきました皆様には心から厚くお礼申し上げます。

当館報の読者諸兄には、来年も良い年でありますよう祈念いたします。

(佐 藤)

東北大学附属図書館館報「木遣子」 第21巻第3号(通巻76号) 発行日 平成8年12月31日

発行人 辻 英雄 広報委員長 門田泰典

発行所 東北大学附属図書館 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5910